

新春 さんのう夢ほっと・だがしや楽校

山形県鶴岡市発

《はじめに》

あまりにもいろいろなことがありすぎた2011年が暮れ、新たなスタートの年であり、第一歩を踏み出す年であり、そこから『希望』と『夢』を生み出し、人と人との『つながり』を築いていく年である2012年（平成14年）が明けました。2012年は“だがしや楽校”にとっても、ひとつの節目の年であり、新たな広がり・新たな展開へとつながる飛躍の年であります。

そんな2012年最初の“だがしや楽校”は、山形県鶴岡市から“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”をお伝えしましょう。

山形県鶴岡市は、山形県のみならず全国的にも、“だがしや楽校”が最も盛んな地域であり、昨年（2011年）2月“未来を築く子育てプロジェクト”にてグランプリである“未来大賞”と“厚生労働大臣賞”を受賞した“だがしや楽校だがしや倶楽部”の本部は鶴岡市にあります。

その鶴岡に《拠店型だがしや楽校》である“さんのう夢ほっとだがしや楽校”が、2011年12月オープンしました。

この『さんのう夢ほっと・だがしや楽校 オープン!』については、12月3日付けのレポートでお伝えしたばかりですが、新しい年を迎え、“だがしや楽校”の原点に立ち返り、気持ちを一新することを目的に、あらためて取材することにしました。

“だがしや楽校”に取り組み始めて10年目を迎えた鶴岡。2012年は、鶴岡における“だがしや楽校”にとっても節目の年であり、そういう意味でも、鶴岡での“だがしや楽校”が、2012年最初の“だがしや楽校”報告に相応しいと思います。

振り返って、“駄菓子屋楽校”（著者：松田道雄氏、新評論）が出版されたのは、2002年です。書店を経営する阿部さん（だがしや楽校だがしや倶楽部・代表、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡・理事）は仕事柄、“駄菓子屋楽校”出版の情報を入手、即“だがしや楽校”に強く関心を抱きます。そして、阿部さんは、当時・中学校教諭だった松田道雄さん（だがしや楽校発案者・東北芸術工科大学・教授）へアプローチします。

ここで私（山口）が申し上げたいのは、阿部さんの場合は、松田さんから声をかけられたわけでもなく、誰から紹介されたわけでもなく、阿部さん自ら“だがしや楽校”に関心を持ったことです。ちなみに、阿部さんからのアプローチに対して、松田さんは「どうぞ、好きにやってください」という返事でした。それは「やり方自由、なんでもあり」という“だがしや楽校”の真髓だったのです。

これで阿部さんはすっかり“だがしや楽校”にのめり込み、鶴岡での“だがしや楽校”の歴史が始まりました。

2012年1月7日（土曜日）鶴岡の天気：曇り時々雪あられ時々雪

【新春 さんのう夢ほっと・だがしや楽校】

2012年の初“だがしや楽校”となった“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”。今回は、特に気負わず、ノンビリと取材することにしましょう。

この日の鶴岡市は、時より雪や雪あられが降るなど、冬の庄内らしく、荒れ気味の天気となり、“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”に来られるお子さん数は、いつもより少なくなりましたが、そこには楽しい遊び空間がありました。



プラバンアクセサリー作り



↑ロウソク作り



モノ作りだけでなく、好き勝手にいろんな遊びを楽しみました。懐かしい糸電話でも遊びました。そして、いっぱい遊ぶと“まいど券”（だがしや楽校エコマネー）で駄菓子などを買います。



《さんのう夢ほっと・だがしや楽校のセールスポイント！》

次の3つを挙げておきます。

☆楽しい空間・自由な空間

子どもたちにとって“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”は、プラバンアクセサリ作りのようなお馴染みの遊びも出来ますし、自分で遊びを創意工夫出来ますし、おしゃべりからふざけっこ、そして寝っころがったり、ただ居るだけでも良い場所ですし、好きなことができる楽しい空間・自由な空間です。楽しさいっぱい・おもしろさいっぱい・夢いっぱい・・・それが“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”です。

☆世代を越えたコミュニケーションの場

“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”には、若者からおとうさん・おかあさん、そして地域のご年配の人まで、いろんな世代の人がやってきます。普段接することが出来ない人同士が交流できる世代を越えたコミュニケーションの場です。

☆ミニ社会教育の場

“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”でいっぱい遊ぶと、エコマネー“まいど券”がもらえます。“まいど券”では、駄菓子屋にて、お菓子やおもちゃと交換することができます。また、“まいど券”では、ほしいおもちゃを買うまで貯めることができます。つまり、“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”は、子どもたちにとってミニ社会教育の場であり、お金の計算をする意味で算数（応用）の勉強の場でもあります。

《進化するさんのう夢ほっと・だがしや楽校》

“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”は、原則として毎週土曜日の午後1～4時にオープンします。それで、2012年第1回目の“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”も午後4時で一端おしまいになりました。

しかし、この日は、そのあとが注目です。少しでも広くなるように、みんなでレイアウトを変えたのです。「ああでもない」「こうでもない」と言いながら、駄菓子屋の向きを変えたり、棚の位置を変えたりしました。1時間近くかけて、試行錯誤を繰り返しました。中学生からは「子どもたちが作ったモノを置く（展示する）場所がほしい」というアイデアも出されました。



こうして、いろいろやっている内に、これまでより広く感じるレイアウトにすることができました。

レイアウト変更に取り組むみなさんの姿は『自分みせ』でした。なぜなら、自分の考えをしっかりと出していたからです。それでいながら、ほかの人の意見を聞き、みんなで協力しながら取り組み始めました。

まさに、みんなで作る夢空間、それが“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”だったのです。

なお、“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”は、2012年3月まで、毎週土曜日の午後1～4時、鶴岡市山王町の“さんのう夢ほっと”1階にて開設しています。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター